

令和4年度第3回四万十町総合振興計画審議会 会議録

開催日時：令和5年2月27日（月）14：00～16：00
場所：本庁西庁舎 3階 防災対策室
出席者：横山 順一、百田 幸生、田中 勇一、神田 修、佐々木 将司
田邊 誠進、川添 節子、三浦 ひろみ、島岡 華奈子、
岡村 健志、野村 宏、山本 由美、浅野 尊子
欠席者：掛水 誠幸、竹吉 功、船村 覺

■会議次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 行政評価について
4. その他
5. 閉会

■会議資料

1. 会議次第
2. 委員名簿
3. 令和4年度行政評価資料
4. 委員評価シート

（事務局）

定刻になりましたので四万十町総合振興計画審議会を始めさせていただきます。よろしくお願いします。それでは、まず初めに会長よりご挨拶をお願いします。

（岡村会長）

皆様今日はどうぞよろしくお願いします。皆様覚えていらっしゃるでしょうか。本日の会は、前回に引き続き行政評価を行うということで、この会はなかなか持久戦でございます。これからたくさんの事業をご紹介しますので、それをお聞きいただきながら、施策全体の評価をしていくということになるかと思います。後ほど事務局の方もからのご説明があると思いますが、今日は約30の事業をこれからご紹介いただきます。評価をするのは施策単位となりますので、その点どうぞよろしくお願いいたします。

会議の進行につきましては、まず10個単位ぐらいで3つぐらいに分けてやっていきたいと思いますので、まずは10個事業をご紹介しますので、10個が終わりましたら皆様から質疑やご意見を賜りまして、その後また第2弾、それから第3弾ということになろうかと思います。このような進行となりますので、どうぞよろしくお願いします。また、評価の中では、ご批判や応援もあると思いますが、是非こういうことをすると、もっと良くなるのではないかなというような、そういったプラスの面というか、来年度以降に役場様が活かせることなんかも意識してコメントいただけるといいかなと思います。それではどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

会議の流れについて説明。〈省略〉

また、本日行政評価の最後に危機管理課の方から国の事業を活用した事業についても評価をお願いしたいとのことで資料を配布させていただきますのでよろしくお願いします。

(岡村会長)

それでは、早速ご説明の方をお願いしたいと思います。では(8)教育環境の充実のところで、31番の小中学校施設維持管理事業からご説明をお願いします。この後、終わりましたらそのままご説明いただく方でバトンタッチしていただいて、ひとまず40番の事業まで続けて説明いただければと思います。

(学校教育課：東副課長)

65P「小・中学校施設維持管理事業」～84P「理科教育振興事業」まで説明。〈省略〉

(岡村会長)

ありがとうございます。ではここまでの事務事業につきまして、ご質問ありましたらお願いします。

確認までに、アルファベットでABCDというのは事業の進捗レベルということですね。事業の進捗レベルというのは、KPIの達成度と置き換えて考えているのですね。ここは一律の基準があるのですかね。60%だったらCにしないとか。もしくは、各担当課の裁量で80%でもAにしてよいし、Bにしてもよいということでしょうか。

(事務局)

100%以上達成できたらA評価、100%～80%はB評価、80%～60%がC評価、60%～40%がD評価、40%未満がE評価ということでつけていただくように各課にお願いをしております。

(岡村会長)

それでは一律ということですね。それで、その下になる事業の評価というのは、チェックリストのようなものがあって、そのチェックリストに該当しているかないかということで、丸がついていれば満たしているということですね。ちなみにいくつか気になったことがあったのですが、事務事業の進捗レベルがA評価で、その下の事業の評価も全部丸なのに、今後の方向性ではなぜ改善しなきゃいけないのかというところが気になったのですが、そういうところについてはいかがですか。やっぱり今よりもっと良くしていく必要がある場合は、チェックリストには書けていないけどもあるとかそういうことでしょうか。何か一つ、ケースでご紹介いただけたらと思います。

(学校教育課：東副課長)

例えば79～80Pとかも進捗レベルとしてはAなので、当然、このKPIの設定の仕方にもよりますが、KPIの達成度が100%になって、この場合は自動的にA評価になるのですが、所管課として、ICTについてはもう少し支援をしていく必要があるというところで、進捗レベルと今後の方向性についての差が出てくるのはしょうがないのかなというところは思っています。

(岡村会長)

例えば、その時に目標の再設定っていうプロセスにはならないですか。

(学校教育課：東副課長)

この目標値については、評価した時点での設定としているので、今後の目標設定については振興計画を見直していく中で検討していきたいです。

(岡村会長)

他に何かご質問ありましたらお願いします。

(山本委員)

65Pの小・中学校施設維持管理事業ですが、耐震化の工事は小中学校でやっていますでしょうか。耐震化工事をやっているのかということと、いつ頃終了するかということについて教えてください。

(岡村会長)

まずその事業に耐震化が入っているかどうかと思いますけど、いかがでしょう。

(学校教育課：東副課長)

今のご質問ですけれども、今の小中学校についての建物の耐震化については全て完了しております。ただ、照明とか非構造部材といわれる部分については今後検討してやっていく方向であります。

(三浦委員)

79PのICT教育推進事業についてですが、取組状況にありますタブレットですが、これは児童や生徒一人ひとりにタブレットが配布されているのでしょうか。それが全ての授業で、体育はないかも分かりませんが使っているのかということと、それから宿題など家に持ち帰ったりもできるのか、Wi-Fiがあれば活用もできると思いますし、どんな状況になっているのかなと思ひまして。あと、利用環境の制限などについてはどうなっていますか。

(学校教育課：東副課長)

タブレットの状況について説明させていただきます。児童生徒については、一人1台タブレットを配備しています。また、学校の運用の中で、持ち帰って使っていたりしています。また、先ほどWi-Fi環境についてお話しがありましたが、ケーブルテレビ等でWi-Fi環境が家庭に整っている場合は、持ち帰り学習においても各家庭のWi-Fiを使って対応していただいておりますが、Wi-Fi環境のない家庭については、USBの無線LANを用意して、費用についても町の方で負担するようにしています。また、ネットワークのセキュリティの部分ですけれども、夜10時以降から朝の8時ぐらいまではネットワークにつながらないような形の取り組みをしたり、フィルターをかけておりますので、アダルトサイトであったり、そういう危険なサイトは閲覧できないようにセキュリティソフトを入れているところです。

(佐々木委員)

71Pの放課後学習支援事業ですけれども、令和3年度の取組状況というところで、興津のみというふうにお聞きしましたが、3点お伺いしたいのですが、なぜ、興津のみなのかということと、放課後学習の支援は何時ぐらいまで行われているのかということと、成果と課題の欄に学校からの配置要望はありますがというふうに記載がありますが、何校ぐらいの要望があるのかというところを教えてください。

(学校教育課：東副課長)

先ほど、小学校の範囲ということで説明させていただきました。この事業とは別で、生涯学習課が担当になりますけれども、放課後こども教室というものがあひまして、放課後の子供達の居場所づくりなどを行っているわけですが、興津小学校以外は設置されております。その中で宿題をやった後の丸付けなどは対応できておりますので、放課後子ども教室が設置できていない興津小学校については、この支援を活用していただいているという状況です。また、時間については放課後2時間程度実施しております。子供たちの宿題だったり、課題に対しての丸付けだったり、そういうことを学校の中で取り組んでいただいているところになります。あと、学校の配置の要望については、2～3校の学校から配置の要望があひましたが、2時間程度の部分で人材の確保が難しく、なかなか来ていただける方が限られている

ところもあり、学校の要望とマッチングができてないというところですよ。

（田中委員）

78Pの教育支援センター運営事業のところで、改善の内容欄に「支援センターに通室している児童生徒は、実際の不登校児童生徒数を大きく下回っている」と記載がありますが、実際にどれぐらいの不登校の児童生徒がいるのか、また今後アウトリーチによる支援をとのことでしたが、実際に人員が足りているのかどうかをお聞きしたいです。

（学校教育課：東副課長）

実際、令和3年度の通室届については、香月教室については小学生が3名、中学生が1名で、田野々教室については、小学生が2名で中学生はいない状況で、十和については令和3年度については0名でした。その中でSSW（スクールソーシャルワーカー）や教育相談員の対応が年間131軒程度ありますので、この通室届が出ている方については対応できているのですが、通室届を出すには至っていない、まだ家庭に閉じこもっている方について、これからアウトリーチという形で、訪問しながら対応していきたいというところで、先ほどご説明をさせていただいたところです。

（岡村会長）

ありがとうございます。支援の手が足りているかというご質問があったと思いますが。

（学校教育課：東副課長）

そこについても来年度からSSWなどについても増員しながら、学校のスクールカウンセラーが県の配置で来ておりますので、そこと連携しながら対応していきたいと考えております。

（岡村会長）

ありがとうございます。体制の強化が必要だという認識だということですね。30分ほど経ちましたので、次のラウンドに行ってみたいと思います。では、41番からご説明をお願いします。

（学校教育課：東副課長）

85P「学力向上対策事業」～104P「学校運営等支援事業」について説明。〈省略〉

（岡村会長）

ありがとうございました。それでは続きまして質問の時間にしたいと思います。ただ今ご説明いただきました点について、それから振り返っても構いませんので、何かありましたらと思います。まず、私から基礎的なことをお伺いしてよろしいですか。85Pですけど成果と課題の欄に66%という数字がありますけれど、これは何に対してということでしょうか。

（学校教育課：東副課長）

こちらについては、全正答を100%とした場合に、66.6%を目標にということです。

（岡村会長）

正答率が66%ということですね。そうすると、ここでは中学の数学がちょっと目標値と比較して差ができてしまったと認識すればいいですか。

（学校教育課：東副課長）

そうですね、この年はこういう状況になったということです。

（岡村会長）

これはあくまでコメントですけど、何を目的にやるかにもよるのでしょうけど、平均を見ていいのか、いわゆる分散化だとか、散らばりを見るってということもあるのではないかなと思います。そうすると、いわゆる低学力の子が少なくなるということだと思うので、そういうのが一つ気になりました。あと87PのKPIの欄ですけど、1日当たりの読書時間30分以上というところが70%とありますが、これはどうやって調べたのでしょうか。

（学校教育課：東副課長）

こちらの方は、全国学力状況調査の中にそういった質問があって、児童や生徒がそれぞれ答えたものを集計しています。評価を作るときに、悩んだところですが指標として設定をさせて頂いたということでございます。

（神田委員）

いくつか質問がありますが、1つは全体的に今の時代性もあって、心の問題やお子さんの特性の問題だとか、家庭だとICTなど、いろいろ対応しなきゃいけない問題もあって本当大変だと思いますが、ただ前も言いましたが、ぽっかり体というか、体力の部分が妙に抜け落ちているような気がしています。もし、ここに書いてあるもの以外で他に各学校において取り組まれていることで、そっちでやっているから大丈夫だとか、そういうことがあったらまた教えていただけたらということと、それから87ページで学校図書館支援員の配置というふうに書いてありますが、これは司書教諭ではないということですよ。その理由を教えてくださいと言ったことが2点目、もう一つさっきの岡村会長のご質問の続きというか、KPIのところの見方を教えてくださいですが、例えば85Pだと、当初値が2で目標値が2になっているのですが、この2はいったい何なのか分からないので、読み方を教えてください。

（学校教育課：東副課長）

まず1件目の体力の部分でございますが、こちらについては当然学校の方でも体力のテストをしております。その中で課題を見つけながら、各学校で取り組んでいただいております。体力についての評価が低い学校については、その結果を見ながら学校において、それぞれ取り組んでいただいているという認識です。

続いて、学校図書支援員についてですが、こちらは教職員ではなく、町の会計年度任用職員となります。規模が大きい窪川中学校、窪川小学校に配置をさせて頂いております。当然教職員や管理職の方と協議しながらやっていただいております。町の方としても他の学校のサポートについても、今後活用していただけるような形で取り組みをしていきたいと考えているところです。

最後85Pの目標値の下のKPIの見方ですけども、先ほどお話した中でもありましたが、全国平均を0として、1ポイントとか2ポイントという形のイメージでKPIの方は記載しております。全国平均からプラマイゼロやったゼロになるわけですけども、目標としては、全国平均と比べてプラス2ポイントを目指したいというところで設定しております。

（野村委員）

95Pの教育研究所運営事業ですが、この中にスクールソーシャルワーカーというのがよく出てきますが、これは町内でどのぐらい配置されていますでしょうか。

（学校教育課：東副課長）

基準については特にございませんが、現在町内で2名配置をしております。今後については、こういう状況が増えることであれば、検討していきたいと考えています。

（岡村会長）

ありがとうございます。ちょっと関連して、このページでQ1分析ってあるじゃないですか。満足度のことだと思いますが、小学生の当初値 62%が 76%になっており、中学生の当初値 56%が 69%になっているということですが、上がっている秘訣というのがありますしたら教えていただきたい。

（学校教育課：東副課長）

その部分については、やはり学級や学校の経営の中でしっかりした取り組みをされているというところが一番なのかなと思います。特に本町は小規模校が多いですので、やっぱり 1 人ひとりを教職員の方々がしっかり見ていただいているという状況の中で、大きい学校についても当然支援員も配置しながら見ていただいて、この数値になっているのかなと考えております。

（岡村会長）

普段よりもそういった環境が充実してきたということによる表れだというふうに考えてよろしいですか。川添委員はこのことについてどう思われますか。

（川添委員）

校内の教育相談支援体制というか、そういうものを町の教育研究所もいろいろ支援してくれて、一人で担任が抱え込まないという形で対応ができていて、いろんな目で子どもたちの成長を支援して行く体制ができていっていると思います。私は、3～4年前に窪川小学校にいたのですが、それから2年間高知市の学校に行って帰ってきましたが、そういうところが随分進んできているので、教員も困った困ったというばかりじゃなくて、どこに相談しようとか視野が広がっていることが影響しているのかなと思っています。SSWもすごく学校に入ってきてくれていますので。

（山本委員）

87Pの学校図書館支援員配置事業ですが、これは 30 分以上読書している方が7割程度ということで素晴らしいと思いました。小学校は、絵本が多いと思うのですが、中学校になれば事業目的にあるように質と量ともに拡充するとあります。やっぱり中学生となると、自我も目覚めはじめて感性が豊かになりますので、それで純文学なんか時代的背景が違いますが、読みやすい本だけじゃなくて、昔から志賀直哉の暗夜行路とか三島由紀夫の金閣寺、夏目漱石の坊っちゃん、太宰治の人間失格ぐらいは最低限読んでほしいなあと考えています。それを支援員が薦めたらいいと思います。私は中村の方で支援員をやっていた経験がありまして、当時の子供たちもライトノベルばかりでなかなか読みませんでしたけど、本の紹介のためにラミネートなんかして、読んでみたら面白いよということで、人間失格などたくさん本を子供たちが読んでくれました。やっぱりそういうふうなものを薦めることが大事じゃないかなと思います。

（学校教育課：東副課長）

それこそ支援員を配置している学校では、ポップや図書の配置の仕方などの見栄えというところで本の紹介もしていただいているところでもあります。ただ、先ほど言われました選書についてのご意見については、情報共有したいと思います。ありがとうございます。

（浅野委員）

日頃から学校関係者、教育委員会、生涯学習課さん本当に大変だと思います。その中で何かお聞きしたいのが、先ほどから話が上がっている図書館の支援員さんですけども、会計年度任用職員さんということですが、スキルをどこまで求められているのか、現状で構いません。司書の経験がおりなのか、それともどこか資格があるとか、なくてもどこかで勤

められていたのかとか、そういった現状の持たれている資格、あるいはその経験やノウハウを教えていただきたいです。それから95Pの成果と課題のところですが、教育相談員やSSWの役割に対して、学校の理解が弱く、課題があっても入りづらい場合がありということで、まさしくいろんな難しいケースがありますので、当然こういうことが出てくると思いますが、ここの部分に対して今後どういうアプローチをされようと検討されているのか、もし何かしら考えておられましたら教えてください。

（学校教育課：東副課長）

まず1点目ですけれども、図書の支援員については資格等の基準はありません。会計年度任用職員で申し込みがあった中から面接をさせていただいて、適性を見ながら配置させていただいています。その中で、司書の資格を優遇するとか、当然ありますけど、今配置されている方について、そういう資格を持たれている方ではないという状況になります。

続いて先程の学校のSSWのかかわりの中でどういう支援を考えるかというところですが、そこについては令和5年度に向けてですね、発達教育支援員という形の職種の方を町として教育研究所に配置したいと考えております。その方については、現状で聴覚士の資格を持っておられる方で、学校の授業や保育所などの現場を見ながら訓練もできるような状況になりますので、ただの見立てではなく、実際指導もできるような方を教育委員会の研究所に配置し、手厚く子供たちの見守りをして行きたいと考えているところです。

（浅野委員）

ありがとうございます。理解っていうのはこの分野に関して、なかなかその経験が無かったりとか、色んなパターンが考えられると思いますので、そこをまたその専門家を入れるっていうのもあると思いますけれども、何らかの形でその簡単にその勉強会をしたりとか、そういうことも必要なケースもあるかもしれませんので、また幅広いご検討よろしく願います。

（田邊委員）

101Pの通学対策事業で細かいところで教えてほしいのですが、町が保有しているスクールバスの台数と、路線バスの台数分かりますでしょうか。

（学校教育課：東副課長）

個人に委託しているスクールバスと四万十交通さんに委託しているバスがあります。また、窪川地区だけが路線バスを使った形で、中学生の通学の運行を行っています。手元に資料がありませんので、詳細までは分かりかねますが、17台は町が保有しているバスで、3路線程度は四万十交通で定期券を購入して運行していただいているバスになります。

（田中委員）

97Pの要保護及び準要保護の基準はどういうものなのか教えてください。

（学校教育課：東副課長）

要保護というのは、生活保護世帯のことになります。また、準要保護というのは、生活保護にはなりませんが、生活保護世帯の所得水準の1.3倍以内の家庭について、準要保護世帯の申請に基づいて支援をさせていただいているということになります。

（岡村会長）

続いて時間の関係もありますので、次のパートに移りたいと思います。同じように51番からご紹介いただいて59番までご説明をお願いします。それから、四万十町災害に強い地域づくりの推進についての事後評価シートを最後にご説明いただいて、そこでご質問の時間を設けたいと思います。よろしくお願いします。

(生涯学習課：味元課長)

105～106P「社会教育団体支援事業」について説明。〈省略〉

(人材育成推進センター：横山)

107～108P「四万十町奨学金等返還支援事業補助金」について説明。〈省略〉

(学校教育課：東副課長)

109P「統合型校務支援システム運営事業」～112P「学校給食センター維持管理事業」について説明。〈省略〉。

(人材育成推進センター：横山次長)

113P「町内高校入学祝い金事業」～121P「人材育成推進事業（産業振興塾）」について説明。〈省略〉

(危機管理課：戸田副課長)

当日配布資料「社会資本整備総合交付金事業」について説明。〈省略〉

(岡村会長)

ありがとうございます。それでは51番から59番。それから災害に強い地域づくりの推進ということでご紹介しました。ご質問ご意見あります方お願いできればと思います。

(島岡委員)

115Pの町内高校給食支援事業についてですが、町内の給食支援に町がすごく力を入れられているのではないかなと個人的には感じていますが、四万十町産の食材を使った給食が、県立高校である窪川高校と四万十高校でも食べられるというものかと思いますが、2点質問ですが、事業目的のところに安価で安定した給食を提供するとありますけれども、高校の方では一食いくらで提供されていますでしょうか。もう1点は、給食を希望したら食べられるということは、高校を選択する時に、直接の選択肢にはならないと思いますが、魅力にはすごく繋がると思います。どんな風に中学生たちに対して告知されているのかっていうのを教えてください。

(人材育成推進センター：横山次長)

1食当たりいくらかというご質問ですが、高校の方は1食300円で提供させていただいております。ただし、牛乳はつけておりません。なぜかというと、牛乳嫌いな子が多いので、希望制でもあるし、高校の中で自動販売機もございますので、そちらの方で飲料水等も購入されるかなということで、牛乳は付けずに300円での提供をさせていただいております。次に、高校の給食があることについて、どこで宣伝しているのかという部分につきましては、正直中学生に宣伝してもなかなかあんまり響かない部分があるので、中学3年生が高校入試を受ける段階で、保護者さんに各中学校で説明会をします。その時に町内高校に入るとこんないいことがありますよという説明を私の方からさせていただいております、その中の1つとして、町内高校に来たら給食がありますよっていう説明もさせていただいております、一定周知はできているんじゃないかなと思っています。

(田邊委員)

今と同じ学校給食の件ですが、124名の方がいると思うのですが、その内訳がわかりますでしょうか。地元の中学校からきた生徒と、先生と多分県外生がいると思いますが、その人数の内訳が分かりますか。

（人材育成推進センター：横山次長）

だいたい7割が生徒で、3割が教職員だったと思います。それで、特に四万十高校でいますと寮生は全員給食を食べる形になっております。

（横山委員）

給食のことが出たので、変な質問かも知れませんが、小学校、中学校では給食を食べる場合は検食をやっていますが、高等学校では希望者ということで、検食はやられているのか、またやっている場合は誰がやっているのか教えてください。

（人材育成推進センター：横山次長）

検食は高校の方はしておりません。そういった部分で、それも加味して希望するかしないかという形を取っていただいていますので、そういった意味でも選択制という形はとらせていただいております。

（横山委員）

希望者ということで、何かあった場合には、それも含めて希望するかどうかっていうことを前もって確認しているということですね。分かりました。

（岡村会長）

奨学金等返還支援事業についてですが、評価がEとなっています。目標そのものの定め方ですよね、結構きびしい設定になっているのではと思ったのですが、その辺は大丈夫ですか。

（人材育成推進センター：横山次長）

KPIの設定ということでしょうか。

（岡村会長）

そうです。目標値が10になっていますけど、今のご説明だと、そもそも難しい設定値だと思います。町外の人だけが対象ということでしょうか。

（人材育成推進センター：横山次長）

そうですね。奨学金返還支援の制度で言いますと、令和3年4月1日以降に住所を移していただいた方から対象になります。ただ、書ききれないことでもあります。大学とか専門学校で県外とか高知市等に進学する場合、住民票をそのまま置いて進学される方も結構いらっしゃいます。四万十町では、そういった方もできる限り対象としていきたいので、そういった方に関しては、卒業証明書や家賃証明書なりをいただいて、この4月以降に住所を移されたことを確認し、交付するようになっていますが、予想以上に申請の対象になる方は少なかったというのが担当としての所感でございますが、今後については徐々に増えてくるのではないかなと思っています。

（山本委員）

117Pの人材育成推進事業のところで、下の方に令和3年度取組状況で「町営塾じゅうく」というのがありますが、以前から思っていたんですが、数学なら数学を教える先生が塾にいて、その場で教えてもらえるのか、それとも塾で自主学習したものを学校に行ってから先生に見てもらおうのかという形でしょうか。

（人材育成推進センター：横山次長）

じゅうくの方は現在スタッフが7名体制であります。内容的には、定期的に授業形式で行っているのが英語で、あとはどういう形で授業を受けたいのか、勉強をどういう形で進

めたらいいのかっていった部分を教えさせていただいています。残りの部分については山本委員が言われたように、数学したい子は数学をして、その中でつまずく問題があった場合に、塾のスタッフが手助けをすることもさせていただいていますので、今の答えで言うと、塾でやったことを学校で採点してもらうわけではなくて、全部塾内で完結する形にしているところでございます。

（佐々木委員）

121Pの人材育成推進事業「産業振興塾」ですが、成果と課題というところに町内の商工業者向けの講座開設という形で今年度計画されていると思いますが、商工業といってもいろいろなジャンルがあります。こういった内容を計画されているのかっていうのを教えていただきたいなと思います。

（人材育成推進センター：横山次長）

令和4年度の授業につきましては、若手新入社員研修の方を中心に行わせていただきまして、だいたい入社して5年目までの事業所の従業員の方を対象に、企画力やビジネスマナーといった部分を、講座として実施させていただいているところでございます。

（岡村会長）

他にご質問ございますでしょうか。もしなければここで各事業の説明を終えて、施策評価シートの方の説明に移りたいと思います。今まで（8）～（9）に関わる30の事業についてご紹介いただきました。これからは、それぞれ施策別に評価の結果をご紹介いただいて、そこに関して、質疑応答で進めて行きたいと思います。時間の都合上2つの施策評価の結果を事務局の方からご説明いただければというふうに思います。よろしくお願いします。

（学校教育課：東副課長）

127～128P施策目標（8）教育環境の充実について説明。〈省略〉

（人材育成推進センター：横山次長）

129P施策目標（9）現在と未来を担う人材育成の推進について説明。〈省略〉

（岡村会長）

ありがとうございます。今のご説明に関しまして、ご質問ありましたらお願いします。この後はそれぞれ委員評価シートにご記入いただくことになりますので、その評価に関連して今のうちにお聞きしたいことがありましたらお願いします。

（浅野委員）

窪川高校、四万十高校への入学者の増というのは、大きな成果だと思いますけれども、令和4年度ですが町内の割合ってどのくらいですか。

（人材育成推進センター：横山次長）

令和4年度につきましては、全体で40.2%が町内中学校から町内高校へ進学しております。それで、そのうち四万十高校につきましては、67%ぐらいが町内から進学したという割合が出ていますので、一定成果としては上がってきているかなと思っているところです。

（浅野委員）

ありがとうございます。あと1点ビジネスプランコンテストですけれども、これは須崎市さんと共催ということですが、今年度こういった案件が上がってきたかご存知ですかね。感想になって恐縮ですが、今年度は非常にレベルが高かったです。海の祭りを資源にした観光振興で、20代の多分女性2人だったと思いますが、漁協も巻き込み、仲間も巻き込み、

黒笹さんも巻き込みでしたし、介護福祉の関係もありましたし、果てはその県外の大学生が国内外で活躍しているスタンフォード大生を呼んで旅行企画をやりようしたり、あとお茶ですかね、高知新聞に載っていましたが、非常にレベルが高かったです。引き続き充実をしていただけたらと思いました。非常に中身のあるコンテストだったと思います。

（人材育成推進センター：横山次長）

ありがとうございます。四万十町の方でも13件ぐらい応募がありまして、最終審査でいうと6件ございました。須崎市と共催させていただいている関係でいうと、やはりそういったプランに応募される方は、1人で不安な部分が沢山あるので、そうした企画を検討している方が集まって話すことによって、自分のプランがもっとブラッシュアップされたりとか、じゃあ私のプランやったら協力できるから一緒にやりようとか相互に関係が築けたりできるので、須崎市さんとも連携を強化していきたいなと思っているところでございます。

（岡村会長）

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。お時間の方も予定の時間に近づいて参りましたので、これで終わりの方に向かっていきたいと思います。今ご記入いただいております評価シートは会議終了後にご提出いただいても結構ですし、今日が難しい場合は、できるだけ早く事務局の方までご提出いただければと思います。それでは、続いてその他の件について事務局よりお願いします。

（事務局）

今後のスケジュールについて説明<省略>

（岡村会長）

予定しておりました議題は以上で終了となります。本日はどうもお疲れさまでございました。

— 閉 会 —